

- 94回例会, 1996, 6, 富山.
- 5) 日比野康英, 大関洋光, 菅野延彦: 高度反復配列湾曲DNAの転写活性化能. 第69回日本生化学会・第19回日本分子生物学会合同年会, 1996, 8, 札幌.
 - 6) 神内伸也, 日比野康英, 大関洋光, 菅野延彦: シスプラチン損傷DNAを認識する23 kDa 相当蛋白質 (P23) と ATPase 活性. 第69回日本生化学会・第19回日本分子生物学会合同年会, 1996, 8, 札幌.
 - 7) 鎌木淳平, 日比野康英, 大橋康宏, 菅野延彦: 椎茸菌糸体培養基由来の多糖蛋白質画分 (LAP1) によるマウス脾細胞の細胞傷害活性の増強: 第55回日本癌学会総会, 1996, 10, 横浜.

統計・情報科学

教授 折笠秀樹

◆ 研究概要

高脂血症の薬物療法に関するランダム化比較試験の統計センターを, 受託研究として稼働しはじめた。全部で約1万2千症例を登録して, 5年間追跡する臨床研究である。

また, 糖尿病患者への自己血糖測定の意義を検証したSCCT研究は, 最終報告の段階にある。

その他, 厚生省の薬剤疫学研究班にも属し, 薬物療法の長期臨床試験に数多く関与してきた。

現存する治療法や予防法を証拠に基づいて見直すという, メタアナリシス研究もいくつか行ってきた。

本年12月には, 文部省科研費シンポジウム「医学・生物学データの統計モデル」を富山で主催した。

◆ 著書

- 1) 折笠秀樹: メタアナリシス. 「今日の疫学」青山英康編, 240-250, 医学書院, 東京, 1996.
- 2) 折笠秀樹訳: 「ニュースの統計数字を正しく読む」. Cohn V. 著, バイオスタット, 東京, 1996.

◆ 原著

- 1) 折笠秀樹, 渥美義仁, 門脇孝: 糖尿病治療研究におけるQOL評価とメタアナリシス. 内分泌・糖尿病科, 2(1): 8-15, 1996.
- 2) 酒井弘憲, 林邦彦, 折笠秀樹, 陣内紀恵, 楠正: 高血圧薬剤治療における有害事象評価へのメタアナリシスの応用. 薬剤疫学, 1(1): 39-40, 1996.

◆ 総説

- 1) 折笠秀樹: 統計数字のトリック. ファルマシア,

32(5): 531 - 533, 1996.

- 2) 折笠秀樹, 田嶋尚子: 糖尿病の臨床疫学. DITN, No.221: 2-3, 1996.
- 3) 折笠秀樹: 臨床疫学の糖尿病治療への活用. Diabetes Journal, 24(4): 141-146, 1996.

◆ 学会報告

- 1) Origasa H.: Literature search and compiling the stroke clinical trials in Japan. Cochrane Stroke Review Group Annual Meeting. 1996, 3, Edinburgh:Scotland.
- 2) Kusunoki T., Honma A., Sawada T., Ishino N., and the SKETCH Study Group: Reliability study in assessing mental condition of patients in chronic stage after stroke. Fourth International Nice/Springfield Symposium on Advances in Alzheimer Therapy. 1996, 4, Nice: France. (折笠はSKETCH Study Group Membersの一人)
- 3) 折笠秀樹: 中間解析を実施するにあたって考えること (シンポジウム「ランダム化臨床試験をめぐる諸問題」). 日本行動計量学会第24回大会, 1996, 9, 幕張 (発表論文抄録集, pp.128-129).
- 4) Origasa H., Atsumi Y., Kadowaki T., for the SCCT Study Group: Quality of life questionnaire development for the management of diabetic patients and its reliability study findings. The 3rd International Conference for Quality of Life Research. 1996, 10, Manila: Phillipine.
- 5) 折笠秀樹: 癌のClinical Trial に求められる統計学のABC. 第34回日本癌治療学会, 教育講演, 1996, 11, 東京. (日本癌治療学会誌, 31: p.484; 特別プログラム抄録集: pp.39-44).
- 6) 折笠秀樹, 山本祐香理, 佐藤均, 林隆一, 井上博: 高血圧患者における降圧薬の併用と合併症に関する処方実態調査. 第17回日本臨床薬理学会, 1996, 11, 東京 (プログラム要旨集: p.115).
- 7) 折笠秀樹, 酒井弘憲, 渥美義仁, 田嶋尚子: NIDDM患者にたいする α -glucosidase inhibitors の総合評価—わが国でのプラシーボ対照ランダム化比較試験を用いたメタアナリシス—. 第17回日本臨床薬理学会, 1996, 11, 東京 (プログラム要旨集: p.104).
- 8) 折笠秀樹, 北野淳子, 多田春江: 国内の脳卒中ランダム化比較試験105報の試験デザイン上の特徴. 第17回日本臨床薬理学会, 1996, 11, 東京 (プログラム要旨集: p.119).
- 9) 山本祐香理, 折笠秀樹, 佐藤均, 林隆一, 井上博: 院内データを用いた降圧薬の使用パターンと合併

症の関係—Drug Utilization study—。第2回日本薬剤疫学研究会。1996, 11, 東京(プログラム要旨集: pp.50-51)。

◆ その他

- 1) 折笠秀樹: 脳循環代謝改善薬は効くのか—メタアナリシスによる検討—。日科技連・臨床試験研究部会月例会, 1996, 2, 東京。
- 2) Origasa H.: Statistical considerations of the Holicos-PAT study. The 5th Holicos-PAT Meeting. 1996, 2, 金沢。
- 3) 折笠秀樹: 臨床試験におけるITTの思想とは。婦人科がん化学療法共同研究会。1996, 4, 滑川。
- 4) 折笠秀樹: 委託研究のありかたと問題点。千葉県病院薬剤師会セミナー。1996, 6, 千葉。
- 5) 折笠秀樹: Evidence-Based Medicineとは—総説—(ワークショップ「本学がめざす臨床研究: Evidence-based medicineの提唱」)。第113回成医会総会。1996, 10, 東京(慈大新聞, No. 504: p.4)。
- 6) 折笠秀樹: 佐久間先生の思い出。「Ceteris Paribusへのあゆみ(佐久間昭教授退官記念誌)」, 12-13, サイエンティスト社, 東京, 1996。
- 7) 折笠秀樹: 統計的な見方・考え方を深めるために。平成8年度・富山県統計教育研究会。1996, 10, 氷見。
- 8) Origasa H.: Exhaustedly compiling the stroke clinical trials in Japan. 第1回コクラン・ハンドサーチ・ワークショップ。1996, 12, 東京
- 9) 折笠秀樹: 薬理実験データの統計解析。富山薬理集談会。1996, 12, 富山。

英 語

教授 藤本正文
 助教授 浜西和子
 助教授 松倉茂
 外国人教師 ジリアン・S・ケイ

◆ 研究概要

- (藤本) 英米文学, 批評理論
- (浜西) 英米文学, 仏文学
- (松倉) 意味論(語用論を含む)
- (ケイ) Status, Role and Expectations of Foreign Teachers in Japanese Universities; Vocabulary; English Language Teaching Methodology.

◆ 原 著

- 1) Hamanishi K.: Le refus du monde moderne chez Giono d'après "Les grands chemins" 富山医科薬科大学一般教育紀要, 17: 57-69, 1996.
- 2) Hamanishi K.: Le parfum exotique chez Baudelaire 富山医科薬科大学一般教育紀要, 17: 71-84, 1996.
- 3) Kay, G.: "Gairaigo", The Oxford Companion to the English Language (abridged edition), 391-392, Oxford University Press, Oxford, 1996.
- 4) Kay, G.: "Japan", The Oxford Companion to the English Language (abridged edition), 494-498, Oxford University Press, Oxford, 1996.
- 5) Kay, G.: Professionalism in the Classroom—The Teacher's Responsibility. The Language Teacher, Vol20 No7, p.31, 1996.

◆ 学会報告

- 1) 浜西和子: プルーストの『失われた時を求めて』に於ける登場人物描写の"カリカチュール"。日本フランス語フランス文学会, 1996, 11, 名古屋。
- 2) Kay, G.: What is the Foreign Instructor to Do? 第22回全国語学教育学会全国総会, 1996, 11, 広島。

◆ その他

- 1) Hamanishi K.: Etude de la Caricature chez Proust, Mémoire présenté en vue du D.E.A." Littérature Française " パリ第4ソルボンヌ大学, 1-54, 1996.

独 語

講 師 名 執 基 樹

◆ 研究概要

「作家」の経験的研究(札幌の作家に対して行った調査をもとに)と作家活動の国際比較

◆ 原 著

- 1) 石原・名執・中禰・岡田・前原・小川: 経験的文学研究の現状と課題—札幌圏における実態調査の報告—。独語独文学科研究年報23号。北海道大学ドイツ語学・文学研究会。73-92. 1996。